

2022/7/16

(うと Q 世話し 嫌な予感) 書庫版



「なあ 6 月、おまえそんなやつじゃなかったよなあ」

是はどなたの作になるかは存じませぬが、以前自分の記事内で 6 月の盛夏と見紛うばかりの猛暑を實に見事な手法で表したものとしてご紹介申し上げたものです。

ところが 7 月に月が替わった途端、更に過酷な猛暑が到来するかと思いきや案に違い涼しい日々が続いております。

エアコンが故障して扇風機だけで過ごしている自分には予期せぬ天の恵みとすら思えるのですが、よくよく観察をしてみると本来梅雨明けの 7 月にはセミの鳴き声が五月蠅いくらいに聞こえる筈なのに、その鳴き声を未だ一回も耳にしていない反面、耳にするのは意外なことに秋の虫たちの鳴き声ばかりであることに気づきました。

これを生じた現象を元に季節の順番を並び替えてみますと

6 月盛夏

7 月短い梅雨

同 7 月かなり早い秋の訪れ

となり、今まで我々が常識的に思っていた季節の移り変わりの順番、即ち

6 月梅雨

7 月～8 月盛夏

9 月秋の訪れ

と大きく順番が入れ替わっているように思えました。

コロナ禍に始まり、猛暑や豪雨、戦争、それ元でのインフレと不況の気配、と続いて直近では世の中を震撼させた銃撃事件。

こうした流れの中で上述の事象に出会いますと何か黒々とした嫌な予感に覆われてしまいます。

何かが変わりつつある。

大きな曲がり角。

得体のしれぬ何かが密かにうごめき始めている。

嫌な予感。